

# 会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第二回 建築・インテリア系教育課程編成委員会
開 催 日 時	令和2年11月27日(金) 15時00分～17時00分
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下1階テラホール、11階1101教室
参 加 者	外部委員：2名 内部委員・学内関係者：4名
	<p>&lt;外部委員：2名&gt; (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照)</p> <p>樋口修 (株式会社ヒグチ設計/東京商工会議所 中野支部)</p> <p>大塚雄二 (大塚雄二都市建築設計事務所/公益社団法人 日本建築家協会)</p> <p>&lt;内部委員：4名&gt;</p> <p>杉本安雄 (専門学校 東京テクニカルカレッジ 建築監督科科长)</p> <p>野上和裕 (同 建築科科长、議長)</p> <p>鈴木昇 (同 建築科夜間(建築士専科) 科长)</p> <p>高山寿一郎 (同 インテリア科科长、書記)</p>
会 議 録	<p>&lt;第一部 系別分科会&gt; 15:00～15:30 地下1階テラホール</p> <p>1. 校長挨拶 専門学校東京テクニカルカレッジ校長 白井雅哲</p> <p>2. 委員のご紹介</p> <p>3. 令和2年度事業計画進捗状況報告</p> <p style="padding-left: 20px;">※ コロナ感染症感染拡大への対応に関する報告</p> <p style="padding-left: 20px;">① 募集活動に関する報告</p> <p style="padding-left: 20px;">② 教育・就職活動に関する報告</p> <p style="padding-left: 20px;">③ 授業の問題発見・改善手法の開発に関する報告</p> <p style="padding-left: 20px;">④ 学習成果の見える化に関する報告</p> <p style="padding-left: 20px;">⑤ 新科2科設立に関する報告</p> <p style="padding-left: 20px;">⑥ 専門人材みらい会議開催に関する報告</p> <p style="padding-left: 20px;">⑦ リアルジョブプロジェクトに関する報告</p> <p style="padding-left: 20px;">⑧ 他、学生支援・リカレント教育等に関する報告</p> <p>&lt;第二部 系別分科会&gt;15:40～17:00 11階1101教室</p> <p>1. 議長挨拶(野上)</p> <p>2. 前回(系別分科会)議事録の確認(高山)</p> <p>3. 意見交換</p> <p>専門学校での授業は対面でやっているのか。(樋口委員)</p> <p>昼間課程は9割程の授業は対面授業。学科によっては、学生が自宅で非常勤講師も自宅から授業配信のリモート授業もおこなっている。(野上)</p> <p>夜間の授業は講義科目をリモート、実習授業は対面でおこなっている。(鈴木)</p> <p>コロナ禍で建設会社の就職はどうなのか。(樋口委員)</p> <p>1DAYインターンシップがリモートになっている。SPIもWEBで受ける。リクルート面談、一次面接、役員面接もリモート。対面で作品を見てもらう機会が少なくなっている。(杉本)</p> <p>現場での外国人労働者は減っているのか。(樋口委員)</p> <p>外国人労働者は現場に結構入っている。職人レベルは外国人労働者で足りているが、監理するスタッフが基本的に足りなく、現場がたたないというのが続いている。求人も減退していない。(杉本)</p>

建築科の2級建築士試験、2級建築施工管理技士試験（以下2級施工）について（野上）  
（配布資料：建築系資格試験データ、2級施工模擬試験データ、2級施工対策予定表）

工業高校卒業で建築士指定科目をクリアしている（大和ハウス工業所属を含む）学生8名が2級建築士を受験。その内7名が一次試験を合格。在学中に2級建築士受験の意識を高められている。

近年の2級施工の合格率が振っていない。93.3%（2015年度）、53.8%（2016年度）、46.4%（2017年度）、48.6%（2018年度）の合格率（全国平均合格率よりは高い。2015年度から2018年度まで順に38.7%、40%、20.6%、25.3%）。2級施工の授業のやり方は以前と変えてはいない。10月23日から1日4コマの授業を2週間、放課後に模擬試験で2級施工の授業をおこなっている。試験本番11月8日の10日前までに42/53人、2日前で38/53人が（総合資格、日建学院の模擬試験）で合格の点数を取っている。合格の点数を取る学生が増えている。要因は、工業高校出身者ですでに2級施工を合格している学生が、7月に2級建築士を受験しており、2級施工の受験はしないが授業を受講し、クラス内の資格勉強に対しての意識を高く保ってくれていたと考えられる。意識の改善と授業の組み立てを2級建築士の勉強・受験から2級施工の勉強・受験とつなげることができた。

対策講座一週間で模擬試験の合格の点数が取れるようになってきているが、その後一週間で点数が落ちている。模擬試験の難易度が違うのか。（大塚委員）

本当であれば一週間後には点数が上がる学生が増えなければならない。（野上）

監督科は10月29日くらいから2級施工集中講座が始まる。初めは点数が取れていないが、直前の模擬試験で5割。多分合格も5割だと思う。同じ幅の中で点数が上がったり下がったりしているが、部分的には奥が深まっている。とっさの問題は判断できるが、二週間はやらなければ予想外の問題には対応できないと思う。（杉本）

二週間の勉強で合格できる試験なのか、それよりも前からやっていてこの成績なのか聞きたい。（大塚委員）

もう一週間前から始めても変わらないか、中だるみしてしまい効果は出ないと思う。（野上）

一週間、10日のうちに点数の伸びしろはあると思う。（大塚委員）

もともと学習してきたことを試験用に整理立てて復習する対策なので、過去に勉強したことを呼び戻す集中講座だと思う。今後はどのようにすれば点数が上がるのか探らなければいけない。2級施工は7、8割が過去問題。来年度からは試験形式が変わるので対策を考えなければいけない。今年度のように在学中に2級建築士を受験できる学生たちを中心にモチベーションを高く保っていききたい。（野上）

良い成績が取れると資格合格できるという事実を、数字的にプレゼンテーションする必要があると思う。（大塚委員）

来年度も継続していきたいと思う。（野上）

インテリア科のインテリアコーディネーター試験について（高山）

インテリア科では1、2年生全学生にインテリアコーディネーターを目指し受験させている。

今年は、一次の学科試験で1年生3名合格、2年生6名合格者を出すことができた。例年だと多くて3名程度。今年は3泊4日の長野研修でインテリアコーディネーターの集中講座が実施できなかったが、学校で週に1、2回のペースで1日中インテリアコーディネーターの

集中講座、過去問題中心に解いていく授業をおこなった。3期授業の4週目、10月11日のインテリアコーディネーター試験までにインテリアコーディネーター関係の授業を集中させ、普段のインテリアコーディネーター関係の講義授業と過去問題・模擬問題解いていく授業を交互におこなうことで点数アップが図れたかと思う。

授業にいかに集中させることができるかでかなり効果は変わってくるかと思う。(大塚委員)

学生の意識の改善が重要だと感じ、この期はインテリアコーディネーター試験に合格するために科目を集中させたが、それだけだと息が詰まってしまうので、途中に実習授業を組み入れた。昨年よりモチベーションが上がっていて集中して授業を受けている。(高山)

今回コロナ禍でどのように意識が変わっているのか、ほとんど変わっていないのか、個人によってかなり違うと思う。どのように影響してきているのか。(大塚委員)

今年のインテリア科の出席率が昨年と比べるとかなり良い。4月、5月登校ができず2年生は2科目リモート授業、この授業の出席率も良い。1年生は6月から授業を始めた。授業を受けるのを待っていた感じが授業中の集中力から感じられる。2か月間授業を受けられなかったことから、授業への欲望が高まったのかと思う。(高山)

オンラインでいろいろな会議をやるが、本気でできる会議はなかなかない。意識を抜くと内容がわからなくなる。対面だと表情が見え感覚で吸収できるが、オンラインだとやっている方も受けている方もものすごく難しい。2か月間の欲望を抑える状況の中から出発したというのが非常にいい方向に働いたということがあったが、そのように強弱をつけるやり方が必要なのだと思う。(大塚委員)

建築監督科の監督教養・監督リテラシの授業について(杉本)

(配布資料：監督科のカリキュラム表、監督教養・監督リテラシスケジュール)

2年次の科目でマインド構築の為の、監督教養、監督リテラシの授業がある。本科を設立するとき、清水建設さん、前田建設さんから、監督を育てるのであれば監督の精神、大きな会社で働くことに対する順応性を高めてほしい。それらが備わっていないとすぐにやめてしまうという話があった。監督教養の授業では、水澤工務店の工事部長に来ていただき、現場の話・現場見学してもらっていた。今年はコロナの影響でほとんど授業ができず、なかなか現場の声を活かす授業ができていない。しかし、専任が話をしていかなければならないので、建設会社・現場の組織体制、現場の中での監督の立ち位置の話などを行っている。この辺の授業のやり方でお知恵を頂戴したい。(杉本)

今建設現場の研究所は閉鎖されているのか。(大塚委員)

人数の制限はあるが、ある程度は受け入れてくれる。(杉本)

現場の見学も、猪俣邸、明日館、木組み博物館を6、7人の3ローテーション位でおこなっている。これに準じるような授業はどのように実施すればよいかを悩んでいる。(杉本)

水澤工務店に入るような学生はいるのか。(樋口委員)

監督科ではインターンシップまではいく。建築科の卒業生がいる。(杉本)

超一流の建物を見させることは、そういう世界があって、現実自分たちはどういうところで仕事をしているかということを知る為にも、すごくいい授業だと思う。それに代わる一流をどうやって見せるかは、大手の建設会社が研究所を持っているので、協力してもらえるのではないかと思う。(大塚委員)

いろいろな企業の研究所は見ることはできるが、講義をしてもらえない。監督としての精神を持ってもらいたい時に、現場、建設会社のしくみ、監督して働く覚悟、あこがれが生まれるような授業をさせてもらっている。(杉本)

半分は現地に行き、リモートで半分は講座ができるかもしれない。(大塚委員)

リモートだと我々が現地にカメラを持って行かないといけない。(杉本)

建築家協会でもリモートでアーバントリップをおこなった。現地見学ができなくてもコンテンツが良ければリモートでできると思った。現地では人数を制限してライブでやることで現場見学の可能性があるのかと思う。(大塚委員)

リモートでリアル配信を水澤さんがやってくれるとよさそう。(野上)

こちらでマイク・カメラのセッティングをして、ライブで講義をしてもらう形でないと無理だと思う。最近軽井沢の建物を見学に行ったが定員が5人だった。大人数では見学ができない。これはコロナ対策と空間の質を守って体験してもらう為。水澤さんに5人単位などで時間をずらして現場を見させていただく提案はできないのか。(大塚委員)

見学の人数の問題より、水澤さんが現場に出ることができない。(杉本)

座学はリモートで、ライブで現場を見せることは最低限の話であったが、人数を分けてどう受け入れていただけるかは、水澤さんの社員が現場に出ることがダメであれば、この線は非常に低いかもしれない。(大塚委員)

他の現場見学もコロナの状況前から5人にしてくれと言われている。(杉本)

現場ごとに連れていく学生をローテーションで5人にして、他の学生は学校で配信を見るという形がいいのではないだろうか。(野上)

リモートでの授業を始めていくのがいいかと思う。この状況が1年は続くと思う。(大塚委員)

#### 4. 次回日程 (議長)

- ・本年度の卒業研究・卒業制作及びRJP学習成果発表会につきましては適切な方策を検討し、あらためてご案内申し上げます。

#### 5. 閉式の挨拶 (議長)

以上